

なんだだったかな

Q1 私は30年近く鶴甲に住んでいるのですが、小学校3年生位のときにあるTV番組のロケが来たのを覚えています。はりぼてのポンコツ機関車が日本列島を旅するという、連続ものでした。坂の住宅地の中をポンコツ機関車が走っているのをTVで確認し兄弟達と喜んでおりましたが、タイトルは忘れてしまいました。

鶴甲：T.Aさん

A. それは「走れK100」です。階段も登れ、線路のいらない、ゴムタイヤで走る水陸両用の機関車だったと思います。その上なんと人間の言葉まで分かる！しかも感情を持ち「ポーポー」しゃべる！当時のSLブームとロボットブームを結びつけた企画だったのでしょうか。これを目にしたあなたはとてもラッキーです。前回のなだだなで紹介した「ポインター」といふ灘のまちには超高性能ブリキハリボテ車が似合うようです。

なだの疑問にお答えします。
なだだったかなでは皆さんからの灘区に関する質問などを募集しています。

赤い旗の内容は前ページの地図に場所が載っています。

Q2 袖谷川沿いの道から市のマークが入った「貧乏川終点」という標識が立っているのが見え、少量ながら袖谷川の方へ水が流れ込んでいるようです。

神戸市の地図を見ても載ってないのですが、王子町：I.Hさん

A. 「貧乏川」は普通河川(れっきとした川)で、この先は袖谷川に合流するので、ここが終点というわけです。なお、もう少し南に下がった水道筋付近にも通称貧乏川と呼ばれている川がありますが、かつてはつながっていたのかもしれませんが。しかしすごい名前ですね。



お知らせ

なんと、灘区でワールドカップ!

1998 コカ・コーラボウリング
ワールドカップ開催

日時：平成10年11月16日(金)～21日(土)
会場：神戸六甲ボウル

1869年4月20日、開港間もない神戸で1レーンのボウリング場が誕生しました。その当時は駐在外国人の会員制クラブであり、お酒を飲みながらボウリングをしたかは定かではありませんが、異国情緒のただよその当時の状況が思い浮かべられます。

それから約130年がたち、今秋、灘区でボウリングワールドカップが11月16日(月)～21日(土)の6日間、「神戸六甲ボウル」で開催されます。参加国は70ヶ国以上にのぼり、男女140名以上の選手達で競われます。

THE 34TH COCA-COLA
BOWLING WORLD CUP
IN KOBE JAPAN
神戸六甲ボウル
1998
11月16-21日
Welcome To All Bowling Fans!

ご意見・ご感想コーナー

創刊号面白かったです。ちなみに子供のころ、近所に「太陽にほえろ」のロケが来たのを覚えています。

鶴甲：H.Nさん
ゴリさんには会えましたか?

デザインや色使いがやや奇抜で見にくいですが、内容はとても面白い。創刊号で終わらず是非10号まで続けてほしい。楽しみにしています。

匿名
とにかく目立つようにしたら派手になりました。ご容赦ください。今号から少し文字を大きくしました。

開かずの踏切の写真には涙チョチョ切れ状態、小泉製麻といえばバインモールで買ったベビーチェア(そのベビーはもう小6になったが今は末っ子が使用中)、市電道が滑走路だったとは初めて知りました。今後の紙面を期待しています。

長崎県 N.Mさん
遠く長崎からご意見ありがとうございました。

「なだだな 創刊号」は、神戸新聞、サンケイリビングで紹介されました。ありがとうございました。

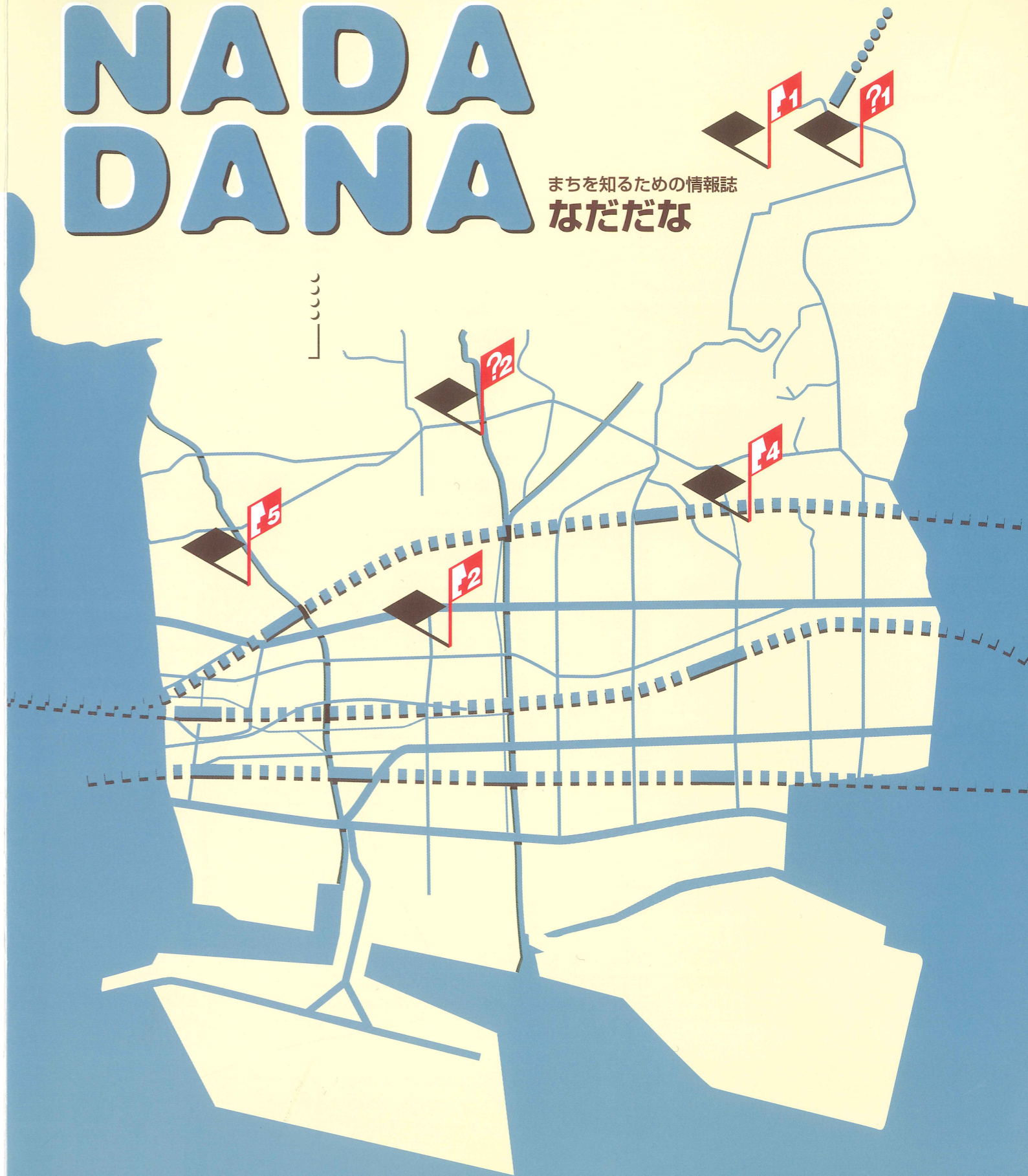
情報をお寄せください

「なだだな」では灘に関する忘れられようとしている事
知られざる歴史
なんとなく覚えている記憶
ひと昔前の写真や資料
魅力的な情報
等を広く募集しております。
皆様からの情報を是非とも
お寄せください。
また、ご意見ご感想も
どしどしお寄せ下さい。

灘区民まちづくり会議
企画運営委員会
〒657-8570 (住所不要)
灘区役所まちづくり推進課内

NADA DANA

まちを知るための情報誌
なだだな



NADA DANA

なだだな No.2
1998年9月

編集・発行
灘区民まちづくり会議
企画運営委員会
〒657-8570
灘区役所まちづくり推進課内
(078) 871-5101 (代)

第三火曜は
「ちょっと気配り」参加の日
一ちょっとした気配りで
住みよい灘区をー



元氣アップ神戸
「ちょっと気配り」のまち 区民運動

神戸市広報印刷物登録
平成10年度第186号
(広報印刷物企画B-1類)



この広報紙は、再生紙を使用しています。

1998.9
Vol.2

編集・発行：灘区民まちづくり会議
企画運営委員会

なだなんだかんだ
水車にまつわるエトセトラ

なだだったかな?
見た!ポンコツ機関車・貧乏川終点?

灘区に水車新田という地名が残っている。かつて水車が残っていたらしい。今となっては幻となってしまった記憶の中の風景に今「浅く」メスを入れる!

水車にまつわるエトセトラ

水車新田

▲六甲ケーブル下の駅あたりに、**水車新田(1)**という地名があるけど、あの辺水車あったんでしょ。

●川沿いの、マンションがいっぱいってる所な。

▲あのあたり、昔水車があった、言われたらなんとなくそんな感じもするけど、見たことありますか?

★いや、あった言う話は知ってるけど、水車新田では見たことないなあ。住吉の山手のほうにあったというのは、覚えているなあ。昭和30年位かな。

●もともとあかり用の燃料の菜種油絞るために使ってた、後々精米や製粉に使っていたらしい。水面近くにあるんやなくて、絶壁の上にあったから水害でも流されへんかったのかなあ。

▲灘区では水車新田とか山の方だけじゃなくて、下のほうにもあった(2)みたいやけど。

★下は溜め池はようけあったから、溜め池から田んぼに水を引く水車とちゃうか。

◆溜め池って今の小学校とか中学校の用地になったって聞いたけどなあ。鳥帽子中学は、小泉製麻の溜め池やったしなあ。

●鷹匠中学は徳井の溜め池や。高羽小学校も溜め池やったしなあ。学校つくろ思たら土地が溜め池しかなかったと違う?

▲水車の話やけど、聞いたところ下の方では鍛冶屋(今の岸地通辺り)の方にあったって聞いたなあ。

★それ、たぶん、灌漑用やで。



現在の水車新田

●石屋川の上流には、今でもかつて水車小屋をやったってという人がおるけどな。おじいちゃんの代くらいまではやっちゃったんちゃうかな。

◆職業が水車小屋?

●そう、水車小屋業。石屋川には水車用に水を引いていた跡があるよ。

石屋川とか住吉川の支流にあつたんは、水が上から落ちてきて、「上掛水車」やねん。下のほうにあつたんは、土地の高低差があんまりないから、水車の下が水につかっているタイプと違うかな。

◆田舎に行くときたまに見かけるような、いわゆる「水車」というやつやな。



石屋川の水車用水路跡
石垣に沿ってある側溝で水を水車まで引いた。

恐るべき水車

★東灘とか灘にあったのは、産業用の水車やから、田舎でこつとこつと回っているの思い浮かべたらあかん。水車も小屋の外にあるんやなくて、小屋の中にあるんや。

●みんな水車ゆうたら馬力的には軽4みたいなもんイメージするかも知れないけど、そんなんとちゃうねん。大型トレーラーみたいなもんや。かんべい山にあつたやつは6m位直径があつたらしい。馬力も10馬力位あつたらしいから、今業務用で使っている小型の精米機2台分か。ごっついで。

■その当時精米を水車でやるようになって、手作業の80から100倍位の能力があつたらしい。

●水車もでかいけど、それに水を送る樋もでかかった。道路の側溝位あつたらしい。

◆そうなんと「のどかな水車」っていうよりは、工場やな。

●高低差を利用した馬力のある水車ちゅうのが灘の水車の特徴らしいな。

【参考文献：『灘区の町名』】



地図上の赤い旗は、各コーナーの内容の場所を表しています。

灘の水車について「私が見た水車はこんなだった」「うちの近くにもあった」「水車にまつわる思い出」などありましたら、是非とも「なだだな」まで情報をお寄せ下さい。

◆酒造りとかで使う精米の需要がよっぽどあったのかなあ。

●江戸時代には醸造高が14万石。一升瓶で1400万本や。

■1400「万」本!そらすごい。

●そんだけの米をついたわけや。小さいのやったら追っつけへん。

★あと水車小屋から浜の酒蔵に精米した米を運ぶのに、牛車や馬車が行ったり来たりするもんやから色々問題になったんやろ?

●道ががたがたになるからなあ。

灘目そうめん?

◆製粉というのはそうめんの材料でしょ?

★「灘目そうめん」(3)な。

●確か「笹の雪」とかいう銘柄があつたなあ。

◆精米用と製粉用の水車とがあつたのかな?

●いや、同じ小屋でやっていたらしいよ。なんでそうめんの製粉と酒の精米が同じ小屋でやれたか知ってる?小麦の製粉は9月から11月半ばまで。酒造りの仕込みの時期に合わせて酒用の精米はその後やっていたらしい。

★精米は酒造りの仕込みの時期に合わせてたんやな。

◆そうめんもかなり有名やったんでしょ?

●酒は丹波や但馬から杜氏が来てたやろ。そうめんは揖保の方から職人がきとつたんと違うかなあ。

▲揖保の糸っていうそうめんがあるでしょ。あれは灘でそうめん技術を得た職人が地元の揖保に帰ってはじめてたすと…揖保の糸のルーツは灘やな。

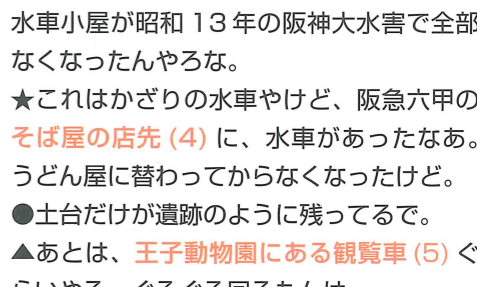
★でも、この前揖保のそうめん資料館行ったけどそんな事一つも書いてなかった(笑)

◆使われなくなって、廃屋的に残っていた水車小屋が昭和13年の阪神大水害で全部なくなったんやろな。

★これはかざりの水車やけど、阪急六甲のそば屋の店先(4)に、水車があつたなあ。うどん屋に替わってからなくなったけど。

●土台だけが遺跡のように残ってるで。

▲あとは、王子動物園にある観覧車(5)ぐらいやろ。ぐるぐる回るもんは。



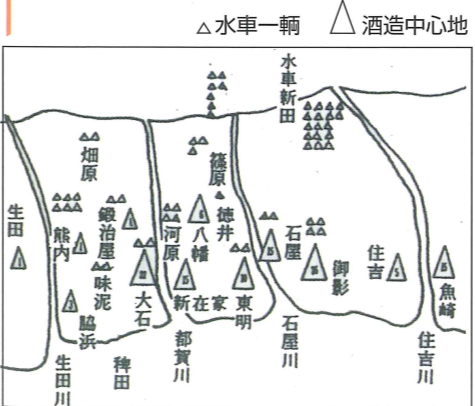
今回のキーワード 赤い旗のキーワードは上の地図に場所が載っています。

【水車新田】

六甲谷川(都賀川上流)の傾斜面を走る川水を利用した水車があつた。紀州の郷土・田林宇兵衛が、灯油(照明用の燃料)としての菜種油を搾る目的で水車を建設、そして新田開発に着手したのは享保8年(1723)だといふ。天明年間(1781~89)には25輛が稼働。1800年初頭以降、幕府の統制強化で原料の菜種入荷が減ったこと、各地に水車業が興りすぎたこともあって、灘の酒造用米つき水車に変わる。明治になつても栄えたが、大正末から昭和の初めごろ、電気や蒸気による精米が発達するにしたがい、水車業は衰えていった。

【南にあつた水車】

下の図で見ると浜手にも米つき水車があつたことがわかる。



1788年 米つき水車の位置

【参考文献：『西宮市史』】

【灘目そうめん】

かつて、灘目(芦屋川~生田川)地方で作られたそうめんのブランド。製法を大和三輪そうめんに学び、流域の水車で製粉を行った。水車出稼人(百日稼ぎ)は西播地方の出身者で占められていたが、これらの人々の中にはそうめんの技法を身につけ、播州そうめんの基となった人もいと伝えられている。

ちなみに灘目とは、かつての灘地方をあらわす言葉で、もともと灘辺(なだべ)(海の近くの意)と呼ばれていたが、その後灘目(なだめ)と、なまって呼ばれるようになった。地名は「なだめ」と読むがそうめんの方は「なだもく」と読むのが正しい。

【阪急六甲の水車】



最近まで阪急六甲駅近くのそば屋に、水車のある風景があつた。(店先の装飾だが)現在はうどん店になり水車ははずされているが、土台だけは確認できる。

【王子動物園にある観覧車】

最高部高さ:36m
回転直径:32m
かつては、神戸市内有数の大きさを誇り、チンパンジーの神ちゃん、飼育係の亀井さんとともに、王子動物園の名物であつた。